

## はじめに

効果的な呼び戻しを教えることは、愛犬と楽しく過ごすために大事なことです。少なくともイギリスでは犬のリードを外すことは普通に行われていますが、「リードを再び簡単に付けられる」ということが健全な飼い主にとって必要です。

私はこの本を、すべての愛犬家のために書きました。特に、呼ばれても来ない愛犬といつもみじめな戦いをしている人たち、そして子犬に呼び戻しを初めからきちんと教え込みたいという人たちのために書かれています。

30年以上前に私が猟犬の訓練を始めた頃は、犬が呼び戻しの指示を無視したらその場で捕まえて罰を与えるというのが通常のやり方でした。このような方法にはいくつもの欠点があり、もっと楽しくて効果的なやり方を探し始めるトレーナーもいました。

時代が変わって、ほとんどの犬のトレーナーは進歩しました。また、犬を揺さぶったり平手打ちをしたり、あるいは運よく捕まえることができた場合に、大きな人間が小さな犬に公然と体罰を与えるということはもはや受け入れられないと考えるようになりました。愛犬が呼んだら戻ってくるようにするためにこのようなことをする必要はまったくありません。

愛犬を訓練するためには別の方法があり、そのすべてがこの本に書かれています。

この本では、褒美を与えることを基本とする最新のトレーニング方法の効果的な使い方をわかりやすく説明します。どのような状況でも、犬の気を散らせるものがあっても、必ず呼び戻しができるように段階を追って導きます。

この本は3部に分かれています。第1部には、課題へ取り組む際の準備に必要な情報がすべて書かれています。中心となる第2部には、実習を含む呼び戻しプログラムが詳しく書かれていて、それぞれの章で操作手順をお伝えします。第3部は問題解決について説明しています。これまでどのようにし

て困難に陥っていたかということを理解し、どうすれば同じ過ちを繰り返さないですむかを学ぶことができます。

もしあなたの愛犬が模範生であれば、このトレーニング・プログラムを使うために「第1部 準備」を読む必要はありますが、「第3部 問題解決」を読む必要はありません。さらに、この本の末尾には参考になるたくさんの資料が載せてあります。訓練の道のを楽しんでください。そして何よりも、愛犬と一緒に楽しんでください。

ピッパ・マッティンソン

## 日本語版序文

本書の原著（英語版）のタイトルは「トータルリコール」で、これは、「愛犬がどのようなことをしている最中でも、呼ばれたら戻ってくる」というような意味です。つまり、他の犬とじゃれ合っていたり、犬好きな人に撫でてもらっていたりしても、呼び戻しの合図を聞いたら、それらを中断して戻ってくるということです。日本の場合、町中では犬のリードを外すことは一般にルール違反とされています。そのため、住宅地や室内で犬を飼われている方は、「そのような能力は必要ない」と思われるかもしれません。しかし本書には、躰の方法だけでなく、その元になっている知識や愛犬の問題行動への対応方法についても詳しく書かれています。

イギリス在住で狩猟犬の訓練士である著者は、狩猟犬のトレーニングにおける自らの経験を、科学的な知識や証拠を基にして、やさしく解説しています。そのため、本書に書かれている内容は、科学と実践での知識が基になっているため、客観的で信頼のおけるものになっています。本書で著者が述べているように、生まれながらにして持っている（犬を訓練する）特殊な才能といったようなものは想定していません。しかし、訓練にかかる時間は、訓練する人の能力、そして犬の年齢や品種、経歴によって異なってきます。ここで言う「能力」は、車の運転の上手い・下手のようなものです。

著者がイギリス人であることから、本書の中では、日本とは異なる条件や環境が時々想定されています。そのような時は、「日本では無理だ」と悲観的に受け取るのではなく、日本での似たような状況を想像し、それに当てはめてみてほしいと思います。そして、本書に記載されている様々なトレーニングを、自分の愛犬との付き合い方にあったやり方に解釈し直してほしいと思います。本書で説明しているトレーニングは「呼び戻し」を対象にしてい

ますが、「お座り」や「伏せ」といった動作にも、もちろん応用できます。

本書は、3つのパートに分かれています。最初のパート（第1部）は、犬をしつけるとはどのようなことかを、科学のおよび著者が経験から得た知識を基にして説明しています。このパートに書かれていることは、すべての飼い主にとって有益な情報です。また、実際にトレーニングを行う際に、大いに役に立つでしょう。パート2（第2部）は、実際のトレーニング方法について書かれています。この部分は先に述べたように、特に日本では、全てを忠実にこなすことは非現実的かもしれません。そのため、まずはあまり気負わずに読まれることをお勧めします。たとえ実際にはここに書かれているような方式でトレーニングをしなくても、今後の愛犬との付き合いにおいて、ここで述べられている内容はきっと役に立つでしょう。パート3（第3部）は、主に、トラブルへの対処方法について書かれています。効果的な散歩のさせ方や、リードの使い方、競技会などのイベントへの参加などについて書かれており、多くの読者にとって役に立つ内容です。巻末には、「役に立つ情報」を掲載しています。本書の原書に載っている情報に加えて、日本の情報も追加しました。読者の方の愛犬との生活において、お役に立てば幸いです。

本書によって、読者の方と愛犬の日々の生活がより豊かなものになるよう願っています。

一灯舎編集部

# 目次

謝辞	iii
はじめに	iv
日本語版序文	vi

## 第1部 準備

第1章 新たに始める	3
第2章 犬はどのようにして学習するか	9
第3章 罰と褒美	21
第4章 褒美を使ったトレーニングの実際	33
第5章 プルーフィングのすべて	41
第6章 トレーニングを超えて	49
第7章 あなたの愛犬	59
第8章 準備はできていますか	65

## 第2部 呼び戻しのトレーニング

第9章 子犬の呼び戻し	79
第10章 成犬の呼び戻しのための準備	91
第11章 基本的な呼び戻し	101
第12章 人間に対するプルーフィング	115
第13章 犬に対するプルーフィング	127
第14章 異なる場所で	139
第15章 すべてをまとめて	155
第16章 生涯にわたる呼び戻し	165

### 第3部 問題解決

第17章	どこで方向性を間違えたか	173
第18章	手に負えない	183
第19章	逃亡する犬	195
第20章	方向を変えて歩く	205
第21章	巧みに身をかかわす	213
第22章	訓練用リードの使用	219
第23章	愛犬と一緒に活動的になる	229
第24章	動作の完了	237
	役に立つ情報源	245
	索引	251

## 第1部

# 準備

- 第1章 新たに始める
- 第2章 犬はどのようにして学習するか
- 第3章 罰と褒美
- 第4章 褒美を使ったトレーニングの実際
- 第5章 プルーフィングのすべて
- 第6章 トレーニングを超えて
- 第7章 あなたの愛犬
- 第8章 準備はできていますか

## — 第1章 —

# 新たに始める

犬のように人間と生活を緊密に共有している動物は他にいません。大きくて力のある動物が私たちの家庭と家族、さらには地域社会に制限を受けないで関わるのが許され、子供や社会の弱者と緊密に触れ合うことは他の動物ではありません。犬を新たに家庭に迎え入れることは人生を変える出来事で、生活の質をいろいろな意味で向上させる可能性があります。しかし、私たちの周りを動き回るといふ緊密さのために、犬が私たちの社会に大きな混乱をもたらすという可能性も大いにあります。

犬が私たちの社会で楽しみを与えてくれる一員になるためには、飼い主と良い関係を築く必要があります。犬は人間社会でどのように振る舞えばよいかわからないので、飼い主が教えてあげる必要があります。そのためには、いつでも犬を呼び戻せるようにしておかなければなりません。しかし残念ながら、多くの飼い主は、呼び戻しを教えることが考えているよりもはるかに難しい技術であることを思い知らされます。

## 大きな期待

愛犬を初めて家庭に迎え入れる準備をすることは、胸を躍らせる経験です。これから飼い主になろうとする人たちは、これから始まる新しい生活にそれぞれの希望と夢と期待を持ちます。しかし、若い犬の飼い主の多くが呼び戻しをきちんとできないことに対して欲求不満を持っているという厳然たる事実があります。



あなたがこの本を読んでいるのは、すでに愛犬の呼び戻しに問題が発生しているからかもしれません。あるいは、初めからきちんと呼び戻し訓練をし

#### 4 第1部 準備

て、問題が起こらないようにしたいからかもしれません。問題の発生を防ぐ方が後で矯正するよりもよいのですが、手遅れになるまで気が付かないということがよくあります。この本は、飼い始めた子犬をきちんと呼び戻せるようにする人だけでなく、呼び戻しの訓練で方向を見失っている人たちを助けるためにも書かれています。

愛犬が小さいうちは、私たちの誰もが愛犬のトレーニングに意欲を持っていて、子犬を迎え入れる前にしつけ教室を予約したり、本を買ったりします。しかし、途中で挫折することが少なくありません。

しつけ教室に参加している場合でも本で勉強している場合でも、多くの人が犬のトレーニングをやめてしまう理由の一つは、そこで使われているトレーニングの方法に信頼と信用が持たなくなるということです。私たちは愛犬を「仲間」で「家族の一員」だと見なし、愛犬を楽しみながらしつけ、やさしく接したいと思っています。しかし、犬に対する考え方のこのような重要な進歩を受け入れないトレーナーがいて、その残酷なトレーニング方法と強引な扱い方を見て、多くの飼い主は新しい子犬をトレーニングする意欲を失ってしまいます。

トレーニングが複雑で味気ないとか、トレーニングの結果が満足できるようなものからほど遠く、公共の場での散歩や不意の来客、日帰り旅行、学校への送り迎えなどの現実社会で役に立たないという理由で、努力して訓練することをやめてしまう人もいます。

現代の社会では、犬のトレーニングを成功させるためには思いやりがあって効果的で楽しい方法でなければなりません。人間と犬のすばらしい協力関係の核心部分に、実効性のある確実な呼び戻しがあります。

### **あなたは一人ではない**

すでに愛犬について困っているとしても、思い詰めないようにしてください。愛犬が笛の合図を無視してあなたを困らせたり、はしゃぎまわって他人を困らせたりすると、この世で最も行儀が悪い犬のように見えます。しかし、

そういうことはまったくありません。たくさんの手引書があり、しつけ教室があるにもかかわらず、多くの人たちが愛犬のことで悪戦苦闘しています。私が受け取る手紙とメールから、「犬が呼ばれたら来る」ということが他のどんなことよりも望まれていることがわかります。この一見単純に見える行為が、犬の飼い主の多くにとって大きな悩みの種となっているのです。

## 確実な呼び戻しを教えることがなぜそれほど難しいのか

昔の訓練方法はかなり簡単で、犬を褒める時は頭を撫で、叱る時は耳のあたりをたたきました。犬は、言うことを聞くようになる場合もありましたが、たたかれることに鈍感になったり、たたかれないように身をかわすのが上手になったりしました。



現在の犬の飼い主は、自分たちの行為について以前よりもよく考え、愛犬がどのように感じているかを考えるようになっていきます。多くの人は、犬にできるだけ罰を与えないで訓練をしたいと思っており、これはとても良いことです。当然のことながら呼び戻しの場合、通常は犬は飼い主の手の届かない所にいるので、ここぞという時に矯正するのは容易ではなく、そのためこのことは特に当てはまります。褒美を与えることを基本としたトレーニング方法は、ドッグ・スポーツと犬のトレーニングにおいて現在主流になっています。できるだけ罰を与えないでトレーニングを成功させるためには、犬の行動の結果を厳密にコントロールして、褒美を効果的に使用することが不可欠です。しかし、多くの人が失敗します。

犬を飼い始めると、飼い主は自分と愛犬の思惑がまったく異なることにすぐに気が付きます。何が重要かということについての両者の意見が一致することはありません。会議に間に合うとか子供を学校に迎えに行くことは、犬には関係のないことです。あなたには馬糞を食べることが良いこととはとても思えないし、あなたがゆったりと歩きたがることや、楽しい気分になっているのに飼い主が家に帰りたがることを犬は理解できません。あなた

が愛犬にとって本当に大切なものを理解して受け入れることができれば、トレーニングは、始める前に半ば成功したと言えます。

あなたが正しい情報を入手して組織化されたトレーニング方法を活用できるようになれば、最新の建設的な強化方法を用いて、呼び戻しを確実にできるように教えることは、実際には難しいことではありません。

## 組織化された方法

人間は学習したことを一般化する卓越した能力を持っています。このことは、ある場所で習得した知識や技能をまったく異なる場所や状況で活用できることを意味します。私たちは、(間違えて) 犬もそれができるとしてしまします。

ある状況で学んだ技能を違う場面に適用するというのは、犬にとって最初はとても難しいことです。呼び戻しをしっかりと教えたはずなのに、他の犬や人間に気をとられていたり、公園や浜辺に行ったりするとできなくなりがっかりさせられます。犬は、自宅の庭で学んだ呼び戻しの指示が郊外に行った時や、他の犬と遊んでいる時にも当てはまるということを理解できないのです。その解決方法は、呼び戻しを層になるように積み上げて、それぞれの層が前の段階よりも少しずつ難しくなるように注意深く組織的にトレーニングすることです。

そこで、非常に詳細で組織的なやり方で呼び戻しトレーニングの過程を指導するために、第2部で明確に計画された方法を提供します。これによって、実効性のある呼び戻しの指示を基礎からどのように効果的に築き上げていくかを学ぶことができます。

第1部の残りの章は、トレーニングに取り組むために必要なすべての情報と知識を確実に取得できるようにするために書かれています。この準備は重要です。これをトレーニングの説明から分けることによって、説明と参考資料が多くなりすぎてトレーニングの課程そのものが混乱してしまうのを防ぎます。

## 犬がどのように考えるかを理解する

呼んだときに戻って来るように犬に教えるということは、あなたの合図や指示に反応して犬が起こす行動を変えることを意味します。あなたが犬を呼んだり、笛を吹いたりしても、犬は最初はその意味がわからないので期待したような反応をしてくれません。（例えば、笛を吹いた時にこちらに向かって来るという）特定のやり方で指示に反応するように訓練すると、それ以降の犬の行動が変わります。幸いなことに、行動の修正に関する膨大な研究があり、その研究の結果は、自由に使うことができると同時に、飼い主にとって非常に役に立つものです。

あなたの愛犬の行動を変えるためには、何が犬の行動をそのようにさせているのかをまず理解する必要があります。ほとんどの人には、犬の訓練をするために動物心理学の専門家になるような時間はありません。そのため第2章に、犬の考え方を知って、何が犬の判断に影響を与えるかということを理解するための情報をまとめました。

## 努力する価値があるか

トレーニング・プログラムに取り組むことはとても大変なことのようと思われるかもしれませんが、愛犬に呼ばば来るように教えることに費やした時間を後悔することは決してないでしょう。呼び戻しがきちんとできるということは、愛犬を危険な状況から遠ざけて、命を救うことにすらなる可能性があります。他人に迷惑をかけず、いたずらをさせないようにすることもできます。実際、愛犬と過ごす日々のなかで呼び戻しを利用する度にありがたみを感じるようになるでしょう。

犬を飼い始めた愛犬家の多くが経験する呼び戻し訓練の難しさは、飼い主だけでなく、犬にも影響を与えます。制御できなくなった犬が何匹も救助センターに送られています。飼い犬の放棄<sup>注1</sup>はイギリスでは大問題になって

注1 [訳注] 環境省が公表している資料を巻末に掲載しています。

## 8 第1部 準備

おり、多くの場合、捨てられた犬はトレーニングに問題を抱えています。

効果的な呼び戻しを教え、他の人もそうできるようにこの本を推薦することは、責任を持って犬を飼うということの喜びと利益を増進します。公共の場で愛犬があなたに従うたびに経験するうれしさは消え去ることはなく、あなたが取得した新しい技能は愛犬と触れ合って楽しむ機会をさらに広げましょう。